

2-(2)-3 入荷予約システム導入による効果検証

2019年導入当初の検証

入荷予約率

(車輛数軸)

待機時間

(分)

作業予定時間差異

(分)

	4月	5月	6月	7月
可児		89.5%	93.3%	93.5%
一宮	73.8%	88.0%	93.6%	92.8%
豊田	68.9%	85.9%	88.9%	86.0%

	6月	7月1週	7月2週	7月3週	7月4週
可児	18	30	24	28	25
一宮	18	11	28	27	26
豊田	14	22	12	15	10

	6月	4 W前	3 W前	2W前	先週
可児	10	11	13	14	10
一宮	11	6	11	13	14
豊田	11	10	12	11	8

- ・ 初期と比較し高値維持＝ドライバー満足度。
- ・ 混雑が頻発しないセンターでは効果薄い。
- ・ 車両数が多い大手の協力がまだ得られてない。

- ・ 目標値30分以内は維持できている。
- ・ 7月の待機時間が6月比悪化している。
- ・ 通過高が121.3%に拡大。(車両増)

- ・ 作業予定時間の差異＝後予約車輛に影響。
- ・ 上記連動した予約システムのカスタマイズ。
- ・ 物量、荷姿による作業時間予測のIT化

導入より半期単位での推移

	19下半期	20上半期	20下半期	21上半期	21下半期	22上半期
入荷予約率	94.4%	96.6%	97.0%	97.3%	97.4%	96.9%
待機時間	22.7	24.9	23.9	18.1	20.7	22.0

直近6か月の推移

2022年	5月	6月	7月	8月	9月	10月
作業時間差異	11.8	11.5	12.6	13.9	12.8	13.7

●実施後のドライバー、発荷主の声

- ・ 当初は不慣れで躊躇したが慣れれば長時間待つことなく便利
- ・ 予約したい時間にバースが埋まっている(予約での早いもの勝ち傾向変わらず)
- ・ 運行計画と予約時間のアンマッチにより結果的に待機が発生する
- ・ 他のドライバーが異なるバースを予約したことで現場が混乱することがある

●導入効果を最大化するポイントは入荷予約率

- ・ 発荷主に対し丁寧な説明(車両手配、荷物の所有権)
- ・ 現場での予約車両を絶対優先

●検証結果

- ・ 入荷予約率は97%程度で安定している。
- ・ 待機時間は20分程度で安定している。
- ・ 作業予定時間の差異はパレタイズを推奨(バラ積は着荷主にも負荷)
※2022年新規の庸車先が増えた事で若干悪化。

2-(2)-4 入荷予約システム導入による状態変化

導入前



フェンス沿いに待機車両10台程度

9:00の状況

導入後



待機車両がほぼゼロ化

営業日 2018-08-21(水) 便区分 ----- グループ ----- 予約No検索

オレンジは現在荷卸し中のトラック 5台 振車: 6台 振車遅れ: 0台 作業遅れ: 0台 振車指示遅れ: 0台 赤線は現在時刻

更新	29 合庫限定	30 自動倉庫限定	32 自動倉庫限定	37 特売・MD 予約	41 特売MD/バレット	43 特売・MD	特売・MD
08:00	MSL93 コカ・コ 5741 舞鶴川通運 飲料特 バレッ 20	ROA63 ネアリ 1186 SKAL 飲料M バレッ 20	FTP85 ネスレ 2505 SKAL 飲料M バレッ 20		COX14 ハッピー 3608 多治見通運 食品M バレッ 10	WAM48 東洋水産 3161 若松総合通 食品M バラ下 10	
08:15							
08:30	WVW79 株式会社 0022 OSO 飲料定 バレッ 20		DMY95 オアシス 0246 徳島発通運 飲料M バレッ 20				
08:45		LI026 オアシス 5858 昭南物産 飲料M バレッ 20					
09:00	GLD78 オアシス 4022 昭南物産 飲料M バレッ 20		LQ002 伊藤園 4444 すやま通運 飲料M バレッ 15		HNS30 タデシナ 1984 丸長通運 食品特 バレッ 20	EYM25 越後 7682 三宅通運 食品特 バレッ 20	
09:15		OUM57 ニットー 5163 アキタ 飲料M バレッ 20					
09:30	AVI16 ボスカサ 0777 阪神通運 飲料M バレッ 20		XVM85 伊藤園 1146 コタマサ 飲料M バレッ 30		NSA56 マルサン 0100 岡崎通運 食品特 バレッ 30	IRJ25 フルボン 7389 オカダエキ 菓子特 バラ下 30	MOE40 泰山米菓 2404 春日通運 菓子特 バラ下 10
09:45		UOW35 株式会社 0003 徳島通運 飲料定 バレッ 20					

青は予約があるが受付がまだしていないトラック
緑は待機中のトラック

SMSでドライバーの携帯へ接車指示が届く

2018-03-17 13:01 送信
【I-SO】 入荷予約サービス
接車可能になりました。東横
A30に接車してください。

※導入前:複数人の受付人員がドライバーに指示伝達▶導入後:1人がモニターで指示

	入荷予約システムなし		入荷予約システム 導入	
			LEVEL I (現状)	LEVEL II (課題)
取引先	運送会社からのクレーム 納品先からの問い合わせ		→	システムを用いての見える化により、減少
納品運送業者	待機車両が多い 納品は早い者勝ち(現場はケンカ) 前後の予定が不明		→	待機車両 減少 順番待ちのストレス 減少 納品時間確定により、前後の予定が組みやすくなった
庫内運営	到着順に荷下ろし=作業段取りの組み立ては難しい		→	・作業スケジュールに準じた入荷が可能 = 庫内の労働生産性向上

※時間の見える化はストレスの軽減と庫内作業の働き方を改善

contents

1． バローHDのビジネスモデルと物流構造

2． ホワイト物流宣言と取組み事例

(1)ドライグロツサリーのリードタイム変更

(2)入荷予約システムの導入

(3)1／3ルールの見直しと返品改善

(4)その他

3． まとめ

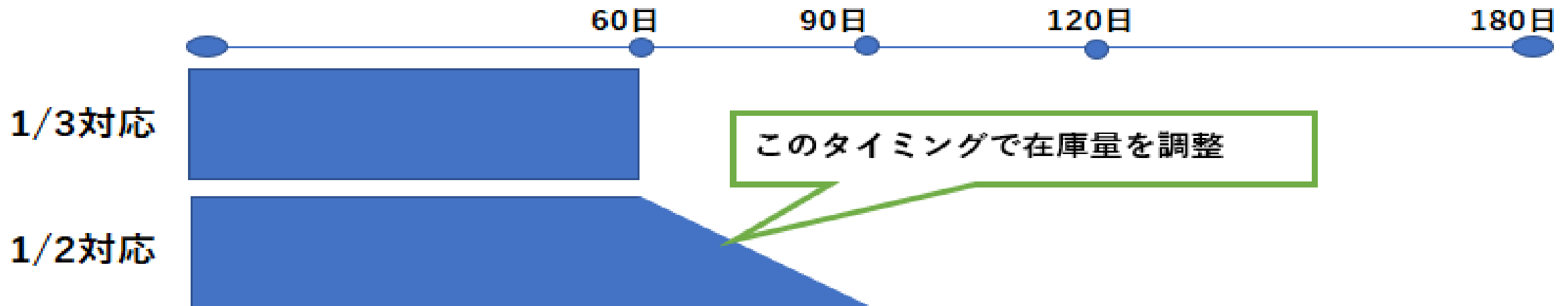
2-(3)-1 1/3ルールの見直しと返品率の改善

●背景（2019年7月～）

- ・大手一部スーパー・コンビニが2013年より1/2に緩和。
- ・バローHDでもSDGs・ESG対応の一環として食品ロスに注目（CSR）
- ・「返品＝物流の無駄」

対象カテゴリー → 食品（加工食品・ラーメン・飲料）、菓子、酒

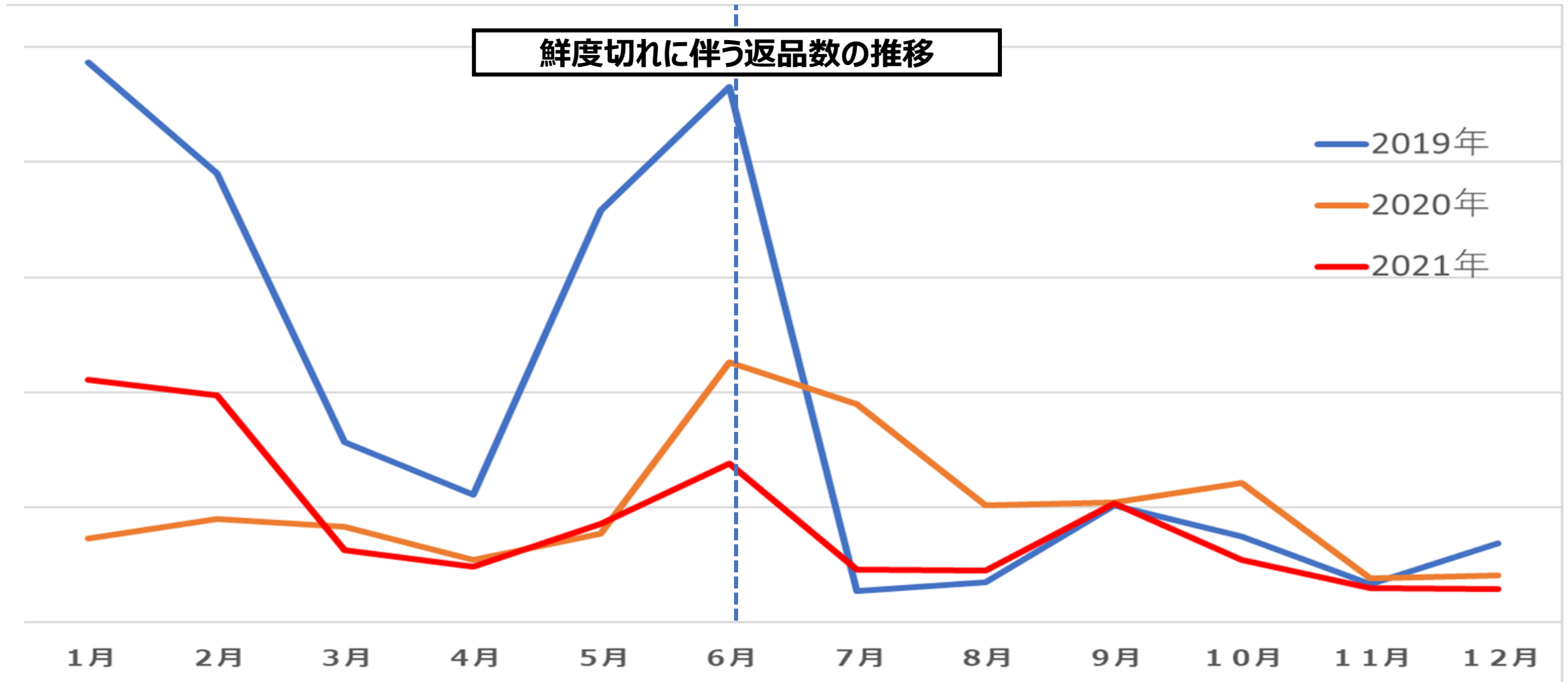
運用対象基準 → 賞味期限180日以上



メーカー・ベンダー返品率改善＝庫内作業、車輛軽減

2-(3)-2 入荷許容率 1/3 → 1/2 への変更

1/3ルールを変える＝フードロス削減と返品(無駄な配送)を削減



contents

1． バローHDのビジネスモデルと物流構造

2． ホワイト物流宣言と取組み事例

(1)ドライグロツサリーのリードタイム変更

(2)入荷予約システムの導入

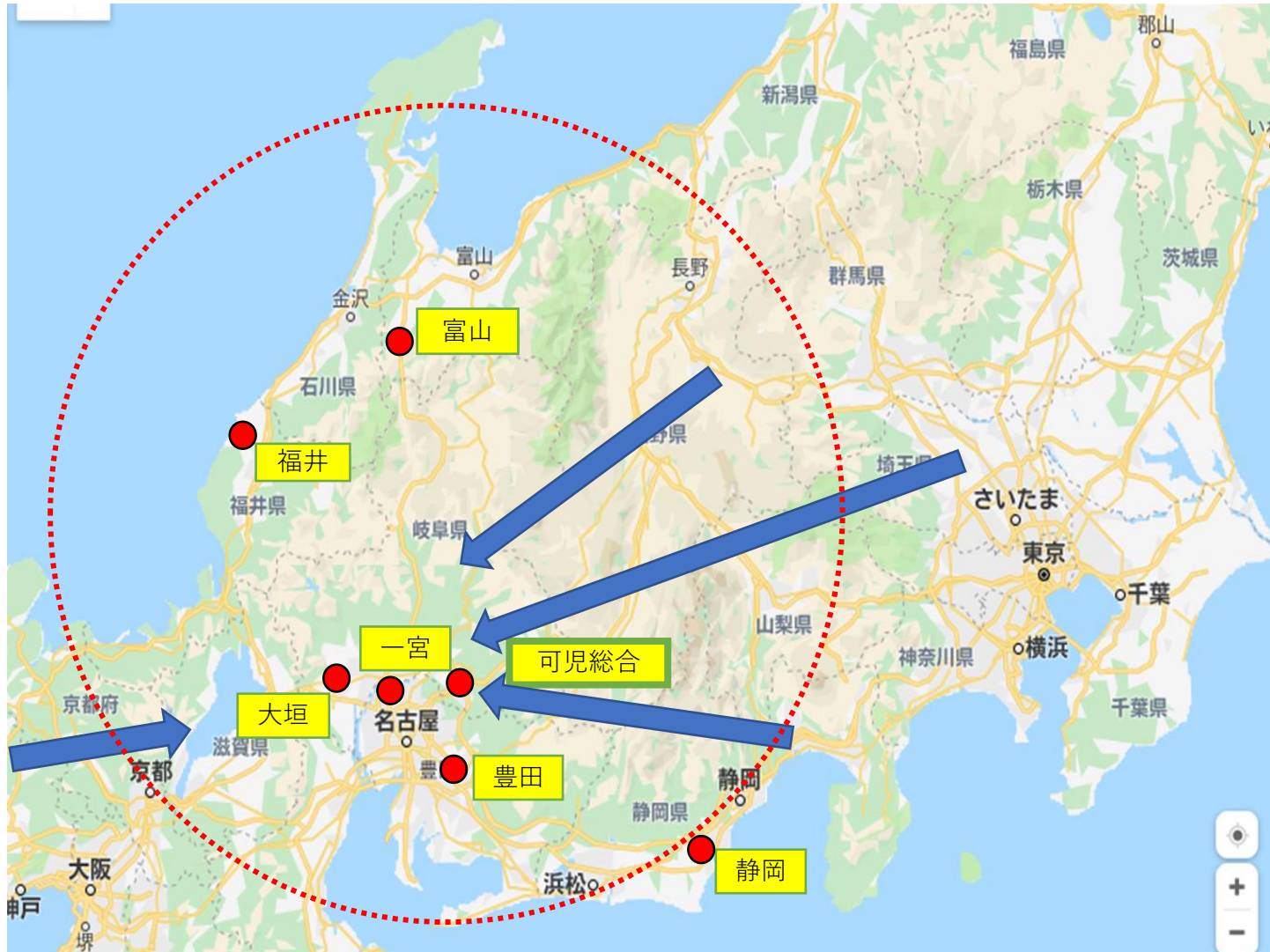
(3)1／3ルールの見直しと返品改善

(4)その他

3． まとめ

2-(4) 物流領域の共同利用・共同配送

- ・ 関連子会社の中部興産物流センターは中部圏に21拠点
- ・ 店舗配送車両を有効活用し集荷、混載輸送、静脈で他社と連携



CKロジ対応店舗網

2019年 8月 2日現在

	SM関連	Drg	HC	合計
岐阜	76	138	23	237
愛知	68	150	8	226
三重	10	14	4	28
静岡	39	13	1	53
富山	22	39		61
石川	13	17		30
福井	23	17		40
新潟	3			3
長野	9			9
山梨	7			7
滋賀	17	3		20
京都	1	4		5
大阪	3			3
CK対応	291	395	36	722

● インフラを共有することで 持続可能な物流に貢献できる。

- ・ グループ内事業の共同配送
 - 経費削減効果をゲインシェアとして配分
- ・ 農産物プラットフォーム配送
 - 配送に困っている生産者さんを静脈物流で支援
- ・ 競合他社との共同配送（現在2社と調整中）
 - インフラは共有、競争はMDを実現

※ 経済合理性が伴ったCSR(企業の社会的責任)

積載率向上 = 温室効果ガスの排出削減

contents

1． バローHDのビジネスモデルと物流構造

2． ホワイト物流宣言と取組み事例

(1)ドライグロツサリーのリードタイム変更

(2)入荷予約システムの導入

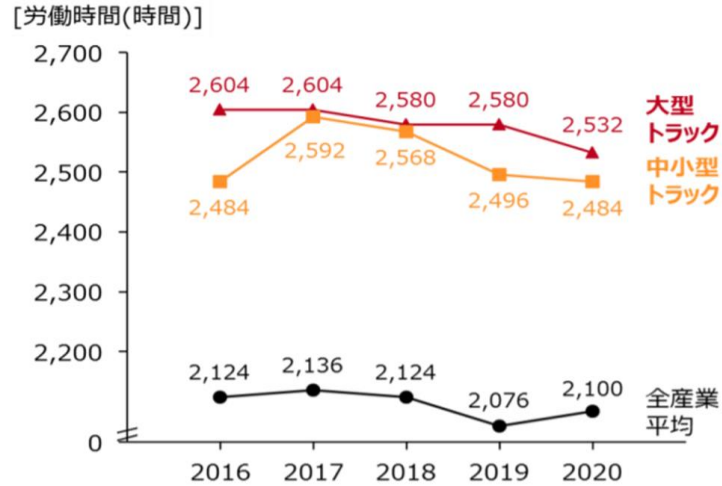
(3)1／3ルールの見直しと返品改善

(4)その他

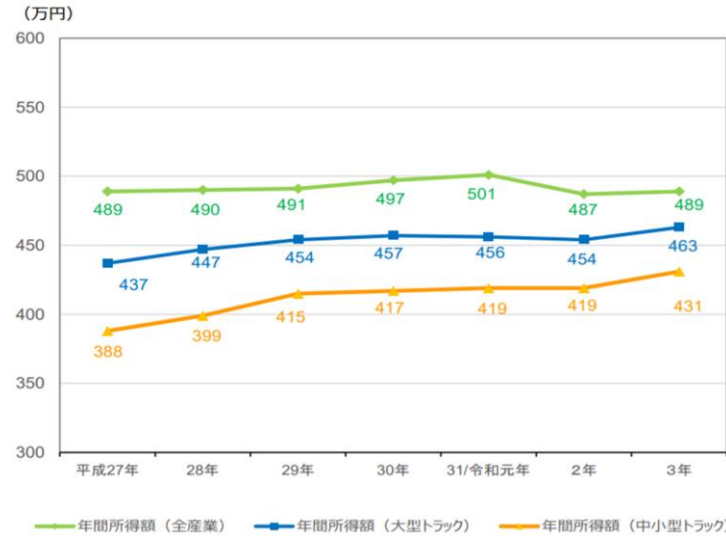
3． まとめ

3-1 トラックドライバーはエッセンシャルワーカー

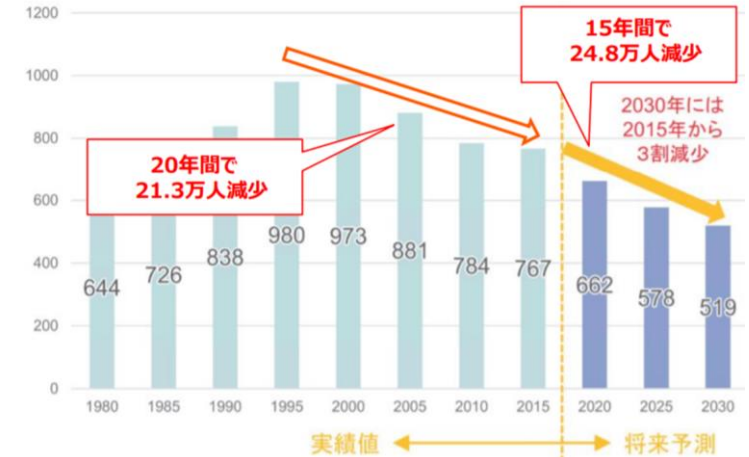
トラックドライバーの年間労働時間



トラックドライバーの年間所得額の推移



道路貨物運送業の運転従事者数の推移



国土交通省-物流を取り巻く現状について引用

● 受託業者に丸投げでは配送困難、配送費高騰の危機

- ・ トラックドライバーの所得額は全産業比で10%程度低い
- ・ トラックドライバーの労働時間は20%程度多い

※ドライバーの働き方改革は2024年4月より適用（賃金見直し・労働時間減少）

● 運転従事者数の推移からも時間による解決は無い

- ・ ドライバーの労働人口減×労働時間規制＝ドライバー労働時間の大幅減少
- ・ 技術革新による省人化はまだまだ先の事

3-2 垂直統合型ビジネスモデル会社が 経験した持続可能物流とは

●着荷主の協力が不可欠（当事者意識）

※最大のリスクは商品が届かなくなること

- ・過剰なサービス要求が物流を不効率化している
- ・今、当たり前前に荷物が届いている状態は当たり前ではない
- ・荷物が届かなくなった時を想像し当事者意識で臨む

- ・全グループ会社が横断的に取組み
グループ成長とSDG'sの両立を実現させる。

valor Holdings

Valor (バロー) とは… 英語の古語で「勇気ある者」を意味します。
この言葉を社名としたのは、社会に貢献する責任ある企業をつくるためには、
何事にも挑戦する「勇気」を持ち続けることが大切だと考えるからです。

